



学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

子供たちの心と共に 大きく育て ～やさしいねの木～



師走。赤や黄に染まった木の葉も随分落ちてきました。でも、東小学校には、初冬の今もたくさんの葉をどんどん、どんどん増やしている大きく豊かな木があります。

その名は『やさしいねの木』

校舎1階、ちょうど中央玄関を入った正面左手、校長室前の廊下の掲示板に、ど～んと存在しています。

1学期中に開催された児童会が行う「第2回代表委員会」で「みんなが仲良く楽しくなるようにしよう。」ということを議題とし、子ども達の話し合いが行われました。

その話し合いでは、

- ① 縦割り班でドッジボールをする。
(6月30日、縦割り班対抗ドッジボール大会開催済み)
- ② 「やさしいねの木」をつくり一年間残す。

ということが決まりました。

日々の学校生活の中で、友達や先生など、誰かの「優しさ」を感じた時、「優しいなあ」と思えた時、心がほっこりした時、温かくなった時、備え付けてある木の葉型のカードに、その人の名前と「優しいね」と思えたことを記入し、「やさしいねの木」に貼っていくという取組です。

「やさしいねの木」より～〇〇さんはやさしいね～

- ・いつも〇〇ちゃんがない時、遊んでくれてありがとう。
- ・かさを忘れていたよと教えてくれました。
- ・足をけがした時、プリントを取ってくれたり、「大丈夫？」と言ってくれてありがとう。
- ・昼休み、サッカーで一緒にしてくれてうれしいです。シュートするのがかっこいいね。
- ・私が目を痛めた時、みんなが大丈夫と言ってくれたのがとてもうれしかったです。
- ・朝、校門の所でがんばってそうじしているところがえらいなあと思いました。
- ・トイレのスリッパを並べてくれてありがとう。
- ・エプロンの授業でわからないところを教えてくださいました。
- ・いつも一人で黒板を消してくれるね。次の学習になるときれいになっているよ。ありがとう。

- ☆書いてもらった人は、「自分が誰かの役に立てた。喜んでもらえた。」ということに気づくことができます。
- ☆書いた人は、何気ない日常の中に、「友達の優しさや温かさ」があることに改めて気づくことができます。
- ☆この「やさしいねの木」を見た人は、素敵な優しさや温かさをもった人がいることを知ることができます。

お互いを良く知り、認め合うことができる。これはとても大切なことです。優しさが溢れ「やさしいねの木」が優しさや温かさの葉でいっぱいになる東小学校でありたいと思います。

人権週間 (12月4日～12月10日)



12月4日～12月10日は「人権週間」です。「人権」とは誰もが平等に持っている楽しく幸せに暮らすことのできる権利です。この権利を阻害する要因の一つに、「様々な差別や偏見」があります。「人権」を守るためにも私達は、大人でも子どもでも、他者との違いを認め、相互に尊重し合う必要があります。

この「人権」については、学校においても日頃から日常の中で指導し、学習しています。中でも、この人権週間中は、より人権意識を高め、実践化を進める為、本校でも、本日、「人権集会」を実施し学び合いました。

英語で「人権」は、Human Rights です。「Human」は「人」。「Rights」は、「正しいこと」。つまり「人権」とは「人として正しいことをすること」でもあります。

差別や偏見を持たず、相手を認め尊重し、思いやりをもって生きていくことがみんなの幸せにつながります。その土台として、「自己肯定感」つまり、「自分のことを自分で認め、好きであるか」ということが大切です。自分自身を大切に思えなくて、他者を大切にしたり、思いやったりすることができるはずがありません。

自分を大切な存在だと自覚し、大好きだと思える子ども、他者を大切にできる子どもを育てたいと思います。